

Title	ウィザアルの社会主義評論梗概
Sub Title	
Author	三邊, 金蔵
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.6 (1921. 6) ,p.843(83)- 855(95)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19210601-0083

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

- of Gold”と題して寄書す。次で第二(九月廿日)第三(十月廿三日)の書を送す。
- 一八一〇年 High Price of Bullion を著す。Bullion Committee 組織せらる(二月十九日)。同報告書發表せらる(六月八日付)。
- 一八一一年 Charles Bosanquet, Practical Observations 著す。Bullion Report を著す。Reply to Mr. Bosanquet を著す。High Price of Bullion 第四版を出す。Horner の決議案下院に於て否決せらる(五月十五日)。
- 一八二一三年 居を倫敦 Mill End 移す Upper Brook St. に移す。
- 一八二四年 Gloucestershire Gatoomb Park の莊園を買ふ。Malthus, Observations on the Corn Laws を著す。穀法案 提出せらる。
- 一八二五年 Malthus “Grounds for an Opinion” 及び “Nature & Progress of Rent” を著す。“Influence of the Low Price of Corn” を著す。Gatoomb Park を本邸にす。A Fellow of University College, Oxford (Sir Edward West) “Application of Capital to Land” を著す。
- 一八二六年 “Economic and Secure Currency” を著す。McCulloch 始めて書を送す。
- 一八二七年 “Principles” を著す。フランクレン、獨逸及

- び佛蘭西を訪ふ。Horner 死す。
- 一八一八年 Gloucestershire の Sheriff となる。兌換再始の討論行はる。總選舉行はる(六七月)。
- 一八一九年 株式取引所を退く。二月二十日 Parliament より選出せられて議員となる。兌換再始。Owen's Scheme 調査委員に選ばれる。“Principles” 第二版を出す。“Economic and Secure Currency” 第三版を出す。
- 一八二〇年 Malthus “Political Economy” 出で。Malthus 佛蘭西を訪ふ。總選舉行はる。再選せらる。“Essay on Funding System” 及び “Encyclopedia Britannica” に寄稿す。
- 一八二二年 Political Economy Club 創立せらる。
- 一八二三年 On Protection to Agriculture を著す。Western の兌換再開の結果を調査せんが爲め委員會議置の動議に際し演説す(六月廿二日)。家族と共に大陸に旅行し、利蘭に於て詩人 F. da Costa に逢ひ、Geneve に於て Dumont の歓迎を受け Sismondi の經濟問題を論ず。更に巴里に於て J. B. Say, Louis Say, Destutt de Tracy を見る。
- 一八二三年 McCulloch 始めて Ricardo を見ふ。“National Bank” を作る。九月十二日耳疾の爲め Gatoomb Park に死す。遺産七十萬磅。
- 一八二四年 遺稿 “National Bank” “Parliamentary Reform” “Speech on Voting by Ballot” 發表せらる。

ウイザールの社會主義

評論梗概

三 邊 金 藏

左に記せるは Harley Withers の “The Case for Capitalism” の第七章に就き或る個所は比較的忠實に他の或る個所は單に其大體の意味のみを自分の拙き邦文に移して彼の社會主義に對する見解の一端を讀者と共に眺かんとしたものに外ならぬ。故に其議論の當否に就きては自分は勿論何等の責をも負はぬ者であること豫め希望して置く。

社會主義者の目指して居る社會が如何なる形態のものであるかは稍明瞭を缺いて居つて詳細には描き出されて居らぬが、併し此故を以て社會主義は單なる架空に過ぎないと批評し去るは極めて不公平であるであらう。何となれば詳細は改造の進むに伴れて次第に充たさる可きものであるのは勿論であるからである。随つて吾々

は社會主義者から其建設せんとする社會の頼つて立つ大原則が如何なるものであり而して又た其より生ずる利益が如何なるものなるかを明瞭に告げらるゝならば、其を以て足れりと思へばならぬのであるが、幸にして社會主義者中の最も明晰なる思索家の一人が、今次の戦争の始まる少し前に、社會主義の目的と、其が何故に採用せられねばならぬものであるかを語る自家の見と、夫より生ず可しと思はるゝ利益とを簡明に説いた一冊子を公にした。フイリップ・スノウデン氏の「社會主義とサンデイカリズム」なる著作は即ち是れであるが、此權威は次の如く吾々に語つて居る。「現時の社會主義の目的とする所を一個の定式にて記述し得るとせば、其は既にシェップ博士に依り總ての社會主義者が己が目的の合理的定義であるとして承け入るゝであらう所の記述にて十分に果されて居る。曰く、社

會主義の綱領の經濟的精髓、國際的運動の眞正なる目的は次の如くである——私有資本の制度(詳言すれば私的企業の自由競争に依りてのみ社會の爲めに調整せらるゝ投機的生産方法)に代ゆるに、集合資本の制度即ち社會の全員に依り生産手段が集合的若くは共同的に所有せらるといふを基礎として統一せる(社會的若くは集合的)國民的労働組織を招致す可き生産方法を以てするに在る。此集合的生産方法は集合的(社會的若くは協同的)に管理せられ得るが如き生産部門と、並びに各人の生産的労働の多寡と社會的效用とに隨ひて總ての人々の間に總ての人の共同生産物の分配とを、官公吏の管理の下に置き、現在の競争制度を驅逐するであらうと。却説スノオデン氏と——スノオデン氏の言ふ所に従へば——總ての社會主義者に依りて承認せらるゝ、此シエツフレ氏の定義に依ると社會

總員の共同生産物は各人の生産的労働の多寡と社會的效用とに依りて公共的管理の下に分配せらるゝのであるから、労働者は社會主義の下に於ては彼の爲せる仕事の量と——其が如何なる意味なりとするも兎に角——社會的效用とに從つて酬らるゝものであることは明かである。而して社會主義の綱領中に在りて甚だ重要な此項目は、ラムセイ・マクドナルト氏も亦た等しく採用して居るのである。即ち氏は其著「社會主義者運動」に於て社會主義と共產主義とを混同するの非なるを説いて斯う言つて居る。「共產主義は個々の消費者に依り、爲されたる勤務に準じて要求せらるゝにあらざして「扶助に對する人間の権利」に應じて要求せらるゝ、富の共同蓄積を豫想する。此消費權を生産に助力する義務に基かしめ、此義務を果すことを拒む悉皆の人を其經濟社會より追放するは共產主義の原

則に合致して居るのであらう。若干の共產主義者は共產制度の確實なる結果の一つは、斯の如き問題が實際に生起して事實的解答を必要とするが如きことなき程度まで道德的堅實性の創造せらるゝことであると主張する。併しそは何れにせよ、共產主義の分配理論は自分の述べた如きものであつて、共產制度と社會主義との相違を包含して居るのである。總てが自己の能力に從ひてと謂ひ、各人が自己の必要に從ひてと謂ふは、何れも共產主義の定式であつて社會主義の定式ではない。社會主義者は「必要」なる語の代りに「奉仕」なる語を挿入する。社會主義者と共產主義者とは共同的蓄積に就ては一致するが彼等は之を分配するに際して個人の實際的要請は如何なる性質のものなりやと云ふ點に就て意見を異にする。社會主義者は個々人々の所得なる溝渠を通じて分配を考へ、共產主義者は人間

の生存權なる溝渠を通じて分配を考ふるのである。故に社會主義者は其が貨幣なると労働券なるとを問はず兎に角何等かの交換媒介物を必要とするに反し、共產主義者は毫も斯の如き交換媒介物を必要としない。兩者の相違は乾物屋に往きて砂糖を買ふ一顧客と、翌朝食卓にて其砂糖の分配を要求する其家族の小兒との間に存する相違を想起するに依りて最も良く説明せられる。或は此事態は之を斯く謂ひ得る、——社會主義は二個の保障の下に於て所得なる思想を認容する。其が満足す可き生活標準を與ふるに十分ならざる可からずと云ふは其一つにして、其が與へられたる「奉仕」を代表するものにして單に他人の労働を搾取す可き力を代表するものであつてはならぬと云ふは其二である。」

由是觀之近代の改造論者が摸索しつゝある經濟的自由は、社會主義の下に於ては今日吾々の

有して居る經濟的自由と種類を異にして居るのみであるやうに思はれる。何となれば現在の事情の下に於ては勞働者は總て特定の企業を創立する雇主の經營の下に在りて消費者たる一般公衆の欲望満足の爲めに働くに反し、社會主義の下に於ては企業家たる雇主の下に立ちて消費者たる公衆の爲めに働くにあらざりて官公吏の管理の下に在りて消費者たる公衆の爲めに働くこととなるからである。而して又た此點に於ては種類の相違と云ふことが最も重要なかの如く思はれる。何となれば自然的事情の下に於ては吾人は活さんが爲めに多少共に働かねばならぬから、完全なる經濟的自由なるものは自然の狀態に於て何人にも許されざることであり、現在の如き社會組織の下に於ては大多數の人にとりて不可能なることであるからである。

乍併兩者の間には二つの大なる相違があるや

うである。何となれば官公吏の管理の下に於ては消費者たる公衆は、競争の廢止せられたる結果として自己の消費する財と勤務とに關して撰擇をなす可き何等の機會をも有せぬが故に、其獲得し得る物を以て満足せねばならぬ其一方に於て勞働者は企業家たる雇主の懷を肥さんが爲めに働くにあらざりて官公吏たる管理者の組織、指揮及び管督の下に一般消費者の爲めに働くこととなるからである。

勞働者は競争が停止せられ、産業の全組織が官公吏の掌裡に集中せる結果として彼此の雇主に就きて撰り好みを爲すを得ざるが故に、其自由は従前に比して増す所なきのみならず、却つて減少すると云ふ事實を見るであらうが、併し營利に汲々たる資本家の仲介を俟たずして一般消費者の爲めに働さつゝありと云ふことが彼の撰擇權の喪失を償ふて餘りありといふことは隨

分あり得ることである。而して又た他方に於ては官公吏の管理といふことは或る程度まで民本的社會組織に依つて、自己と自己の仲間の願望理想を根據として其上に立つて居るものであると云ふ事實が、自己は必竟自己の爲めに働さつゝあるに過ぎぬと信するに至らしめて、自ら眞に之を所有しつゝあると殆んど同等なる自由の意識を彼に與へるかも知れぬ。國有の製靴工場に於て勞働しつゝある社會主義的勞働者は、若し勞銀の増加と云ふことが之に依つて招徠せらるゝにあらざれば、己が愈々益々勤勉に働くこと云ふことは唯々雇主の懷を愈々益々肥すのみであつて自らには何等の利益をも齎らさぬとして失望するが如きことはないであらう。否彼は自己が勤勉なれば勤勉なる程愈々益々多量の靴は製作せられて社會の利益となりつゝある。而して彼の努力は他の産業に於て彼と他の消費者と

の爲めに働さつゝある總ての同胞の同様なる努力に依つて償はれつゝあると感ずるかも知れぬ。完全なる經濟的自由は人生の一切の必要品が自働的機械に依りて隨意に作り出さるゝ時期の到來するまでは人間の享受し得ざる所であるからして、此は彼も亦た勿論之を享け得ないであらうが、併し彼は自己の勞働條件が現在の夫れとは全く異り、従つて自己は他人を助けつゝあり他人は自己を助けつゝあると覺知して事柄の喜悅の爲めに勤勉努力せんと欲するが如き事態の許に到達するかも知れぬ。若し斯の如き事態が眞に招徠せらるゝならば其利益の巨大なる可きは甚だ明瞭である。悉皆の勞働者は「爲されねばならぬ仕事の額を濫費」せざらんが爲めに各人の生産額を制限すると云ふが如き舉に出でずして出來得る限り勤勉に働くであらうし、努力を省き得る機械の採用は自己と他の總ての

人々の仕事を輕易ならしむるものであるからと云つて之を歓迎するであらう。而して異なる精神を以て産業が管理せらるゝ結果は必ずや生産額の甚だ大なる増加となるであらうと云ふは或は真であるかも知れぬ。

が併し此總て甚だ美はしき事柄は眞に起るであらうか。スノオデン氏に従へば労働者は社會主義の下に於ては各人の生産的労働の多寡と社會的效用とに従つて報酬せらるゝものなること前述の如くであるが、此は明かに一方に於ては各人の仕事の多寡を測定せんが爲めに個數仕事を基礎にとり、他方各人の労働の社會的效用に關しては或る人若くは或る委員の決定を基礎にとる差等的勞銀と云ふことを包含するものである。そこで自分の疑問とする所は、爲されたる仕事の多寡に従つて差等を立つると云ふことは測定の困難と云ふことを含み随つて猜忌と軋

とを生ずるの憂はなきか而して又た社會的效用如何と云ふ問題は有りど有らゆる闘争と不和とを招きはせぬかと云ふことである。若し吾々が、多くの社會主義者の臆測するが如くに、吾々は社會主義的國家の一員たりと云ふ理由からして瞬く間に吾々の性情に著しき變化を受くるものであると保證し得るならば、無論以上の如き詳細は何等の災害困難にも到り着きはせぬが、併し自然は何事に於ても飛躍するものではないのである。従つて吾々は猶ほ暫くの間は今日在るが如き人間であるであらう。而して從來屢々産業争闘の原因となつた労働組合相互間の猜忌嫉妬は、社會主義の下に於ては自己に支給せらるゝ勞銀と他人に支給せらるゝ勞銀との問題に關して労働者間に生ずる深刻なる不和となつて更新せらるゝであらう。炭坑夫の仕事と製靴工の仕事との間には社會的効用上如何なる相違

ありやと云ふが如き問題は關係者總ての絶大な好意を以てするも之を決定することは困難であらう。而して若し嚮々たる好意の代りに自己の爲めに最善を圖らんとする昔ながらの自然的希望が各人の側に殘存せんならば、産業争闘は今日よりも遙かに廣汎にして又た甚だ不愉快なる規模にて再現するであらう。何となれば社會主義の下に於ては國家若くは輿論なる形體に於ての和解者なるものが存せぬであらうからである。詳しく言へば國家は自らが雇主であつて争闘の一方であり、而して殆んど總ての公衆は動もすれば同種の争闘に直接關係せんとする傾向を有するが故に、公平と云ふことに缺く可からざる要件たる虚心恒懷を以て之に接するを得ぬのである。スノオデン氏はシェツフレ氏の如く社會主義の下に於ては一切の私人企業は廢止せらる可きものなりとなさずして、十中の八九ま

で之を廢止するに至るであらう其の條件を設定するものであるから、一労働者と國家との間に争闘の生ずる毎に、治者たる官僚を除外すれば自己が即ち社會の全員である一切の他の労働者は、今日他人の身上に見る所は聽て我身の上と感ぜざるを得ぬであらう。

而して又た假令是等の困難は一片の杞憂と散つて、労働者は營利に汲々たる雇主が從來彼等より得る能はざりし熱心と成功とを以て働くものなりとしても、尙ほ吾人は官僚的經營の能率に就て多大なる疑問を懷かざるを得ぬのである。此世界を吾々の希望して居るが如きものとなさんが爲めには生産の大増加を必要とすることは既に自分の説いた所であるが、此事は労働者の勤勉だけを以てしては到底達せられない。何となれば労働者の側に於ける勤勉と努力とは若し其が誤つて指導せらるゝか、若しくは指導

者たる責任を負ふ者が断えず新規の方法を採用せんと努め失敗の場合に對する全責任を一身に負ふて實驗を試むるが如きとなくば、事に資益する所は甚だ小であつて殆ど何等の用をもなさぬからである。乃ち官僚的經營の能率如何が問題となる所以であるが吾々は誠に官僚的經營の下にありても、私人企業の下に於けると同様に實驗を試み危険を冒すであらうか。吾々は假令辛うじて成功するも其に依つて得る所は甚だ鮮少に之に對して酬むらるゝ所は全くあることなき其反對に失敗せる場合には諸種の非難と批評とを蒙るの憂ある人々が活潑々地に活動す可しと想像するよりは寧ろ彼等の行動は敏活なるを得ざる約束にありと察す可きではなからうか。

進歩に必要不可欠なる順應性と企業心とを確保すること恐くは能はざる可し[○]の理由の上に立ちて産業の國有に反對する者は、時として

爲政の局に在る官吏を攻撃する者なりとして待たるゝのであるが、此は少とも自分には當らぬのである。自分は我が諸大學に於ける秀才が年々踵を接して官界に入るの事實に徴し、將た又た自己の個人的知識に徴して政府當局者が豊富なる才幹を藏し居るを深く信する者である。彼等の熱心と誠意とに就ても自分は悉く之を疑ふ者ではないのである。が併し夫れにも拘らず制度上の缺陷からして彼等の努力の結果が香しからざるは今次の戦争以前に於ても世人の口頭に上つて居つたのである。而して今次の戦争中に於ける政府の經營管理の經驗は、今日形つくり得可き如何なる政府にも國民の經濟的活動を組織すると云ふが如き大任を負はして其成功を庶幾するが如きは到底不可能であると總ての人をして斷言せざるを得ざるに至らしめたのである。

勿論斯く言へばとて、自分は此過去の經驗に即して將來に於て有り得可き一切を拒まんとする者ではない。吾々は他年一日或は如何なる點より見るも能力に富み知識に秀で、而も最も良き意味に於て經濟的なる官僚を養成助長し得るかも知れぬのである。而して此點から之に準らへ得可き例を擧げんならば株式會社組織の發達は正さに其適例であらう。即ち株式會社組織の企業は順應性屈伸性を缺くからして一定の定規「仕來り」に従ひて遂行し得る例へば銀行業運送業の如き企業に於てのみ個人企業と競争し得るに過ぎないと、斯うアダム・スミスは斷言したのである。而して爾來の經驗は是等の事業に於て株式會社組織の企業が最も成功せることを明白に語つて居るのであるが、併し個人的企業家が必ず優勝す可しと思惟せられたる方面に於てすら株式組織が次第に個人的企業を凌がん

としつゝあるも亦疑を容れざる事實であつて、小賣業の如きに於て株式組織が急速に勢力を得つゝあるが如きは蓋し全く世人の豫想を裏切る現象と云ふ可きであらう。然れば官公吏の管理の下に營まるゝ國有企業が、同様に有效なる組織たること有り得可しと云ふも、強ちに空想を以て咎む可きではないであらう。併し斯くの如く國家が他年一日能くするを得可きと對して數歩を譲るとするも、然かも今日此秋に於て此可能性を基として事を策するの權利は吾々になのである。今日の如き事態の下に於て社會の全生産力を擧げて之を官公吏の手に移すは、多分經濟上の大災害を醸す所以となるであらう。爲さる可き仕事の規模甚だ大なりと云ふ一事すらもが超人の群を養長したる後は知らずその時までは、既に經營をして困難ならしめ滯滞ならしむる原因となるであらうからである。大なる

産業合同の或るもの、否其より小なる競争者もが規模の大き一定點以上に出づるときは却つて弱點たることを發見するに至れりといふ事實は此點より見て吾々の大に參考す可きことであらう。

却説最後に社會主義に到達す可き方法に就ては今日に於ては最早異論はないと、スノオデン氏は吾々に告げる。即氏は一方に於て「目指されて居る經濟上の變化は政治的行動に頼つて齎せられねばならぬとは今日總ての社會主義の一致する所である。シドニー・ウエツプ氏は社會主義への進程は(第一)民本的——即ち人々の心胸中に準備せられ、且つ彼等に依つて受け入れらるゝこと、(第二)漸進的——即ち進歩は如何に迅速なりとするも爲めに産業の混亂を惹起せざること、(第三)道徳的——即ち社會の眼から見て不道徳的にあらざること、(第四)立憲的

善の結果を齎らす可き其企業形態を獎勵するに相違ないのである。乍併社會主義的國家に存在する私的生産若くは任意的企業は其何たるを問はず私的資本主義ではないであらう。資本主義とは利潤若くは餘剩價値を私有せんとする目的の爲めに使用せられたる資本を意味す。他人の利潤の爲めに勞働の搾取を許す社會主義的國家なるもの存す可き筈なし。經濟的地代が獨占者に依りて私有せらるゝ社會主義的國家なるものは在り能はぬのである。社會主義者が何故土地と資本との管理及所有を目的とするかと言へば、其理由は、之を一般的に言へば、其が地代利子及利潤を社會の爲めに收得し得る唯一の道であるからであり、而して又た、一般的に言ひて、社會が私的企業が之を爲し得るよりも一層經濟的に且つ一層有効に事業若くは公共的勤務を果し得るからである。

——即ち民本的議會に依り承認せらるゝ立法に依ること、である可きは疑ひ得ざる可きなりと説く。」と云ふと共に、他方に於ては、アルサ、アル・パルフォア氏が「社會主義の意味は唯一つあるのみ。社會主義は社會若くは國家が一切の生産手段を自己の掌裡に收め、私的企業と私有財産とが其之に隨伴する一切と共に終熄することを意味するもので其他の何事をも意味するものではない。」と言へるを引用し來つて次の如く説いて居る。「此定義は今日の社會主義が目的とする所を正當確實に述べたるものではない。社會主義は唯社會に依りて便宜に且有益に所有せられ管理せられ得るが如き生産手段を公有となさんと提議するのみである。若し私的企業が社會の爲し得るよりも一層優良に何等かの生産事業を遂行し得、何等かの公共的勤務を致し得るならば、社會主義的國家は必ずや社會に最

併し自分の見る所を以てすればスノオデン氏の此後の臆測は遞信省の電信電話に對する經營の如き例に依ては決して立證せられぬのである。而して若し——此はスノオデン氏の指摘する所と思れるが——、社會主義的國家に於ては私的生産若くは任意的企業が利潤を儲くるを許さずとせば、一切の生産手段は人間の性情が急速に變化せざる限り必ず國家の手に移さるゝであらうと思はれる、何となれば國家以外の何人もが之れを利用す可しとは思惟せられぬからである。而して其場合には、私的企業と私有財産とは必ずや終熄す可しと言へるバルフォア氏の見解は明かに正當であると言はねばならぬのである。而して、一九一九年の勞働組合大會の席上に於てトム・ショウ氏が「社會主義にして若し何事かを意味するとせば、其は生産分配及び交換の手段の國有と國民全體の爲めに國民全體に

依りて之れを管理することを意味す」と言へるは、即ち聽てバルフォア氏の爲めに辨するものと云ひ得るであらう。蓋しトム・シヨウ氏は之に何等の例外をも認めからである。

次に又たスノオデン氏は社會主義を實現すべき實際的手段として、八時間労働制成年労働者に對する最低賃銀法、疾病の際に於ける完全なる補給、一切の兒童に對する小中學及び専門學校に於ける無料教育一切の老年者及廢疾者に對する十分なる給與労働者の一般的標準を向上せしめんとする其他の政策等を列擧し、「間接税を廢止して一切の公共的負擔を漸次に不勞所得の上に移し、斯くて終には全く不勞所得なきに至らしむること」を數え、更らに進みては餘剩價値の課税に依りて失業者の救済若くは支持を策し、頼つて以て労働者が各自職を求めんとして競争するの憂なからしむ可しと主張し、其目的

に到達す可き手段として「社會主義者は國家が道路、港灣、水路の改良及び適當なる荒蕪地の殖林等の如き國富開發の計畫を實行せんことを要求する。而して又た労働者の爲めに小農場を設け國有資本の助けを以て斯る國有農場の小作人間に共同組合的努力を奨励するに依りて之を援助する政策を懲慝することを吾々に告げ都市は住宅の建設、火災保險、石炭の供給、牛乳の供給等の如き事業を經營し得可しとなし、「土地、鑛山、鐵道及其地の交通機の國有は社會主義に向つて數歩を進むる所以なる可し」と説くのである。

而してスノオデン氏は是等の綱領を實行する資金調達の困難は幾多の邦國に於て沒收に依らずして鐵道が國有に移され、電燈、瓦斯、市街鐵道等が市有に移されたるの事實を勘考すれば直ちに甚だ大ならざるを發見す可しと主張して居

るが、之は道理に於ては誠に其通りである。何となれば國家は私人の手より企業の本と負債とをとり之に對して國債證券を發行すれば買收は此處に完全に終了するからである。而して國家の負債は之に依つて著しく増加するに相違ないが、併し其は獲得せられたる企業の本と負債とを完済する爲めに増加せられたるに過ぎないから國家若くは都市が法外なる價を支拂ざる限りは、其國の富力及生産力に對する負擔は毫も増加せぬ道理となるが故である。併し夫れにも拘らず、過去の經驗より推して之を言へば、國家の産業管理は能率低くして兎角濫費に流れ易きが故に、其社會に致す所の勤務は良好なるを得ず、其が労働者に與ふる所の待遇は必しも他に勝れりと謂ふ可からずして、而かも買收に起因せる負債の利子と償銷とに十分なる益金を收むる能はざる危険ありと主張せねばならぬのであ

る。而して斯の如き場合に於ては、企業の本は何れも負擔の増加であり所得の減少であると云はねばならぬのである。然れば管理の局に當る者が未だ十分に企業の經營を習熟せざるに早くも社會主義を實行せんとするは、總て希望の郷土に至らんと欲して却つて經濟的破滅を招くものなりと言はねばならぬのである。知らず世人は果して、斯の如き冒險を爲すに甲斐ある業なりとなすや否やを。

八十年代の英國 社會主義 (二、完)

加田 哲 二

正統學派の經濟學説は J. S. Mill の經濟學原